

創造・参加・実践

JR 西労組ひろしま

西日本旅客鉄道労働組合
広島地方本部
発行責任者 石松 大介
編集責任者 好永 惇弥

広島市東区上大須賀町16-1
新幹線西高架下3F
J R (081) 2473
NTT (261) 6614

No.432

2024年8月30日

第36回定期中央本部大会を開催!

安全を基礎に絆を深め、未来を切り拓こう

J R 西労組中央本部は、7月18日(木)〜19日(金)、「ホテルフクラシア大阪ベイ」において、第36回定期中央本部大会を開催しました。大会では、執行部から1年間の経過報告や、活動方針予算案が提起されると共に、全体質疑での討論や、各小委員会においては多くの代議員からの発言があり活発な議論が繰り広げられました。広島地本からは7名の代議員が発言を行いました。最後に中央本部上村執行委員長の団結ガンバローで閉会しました。

中央本部上村執行委員 長あいさつ(要旨)

①世界一安全な鉄道会社をめざして

福知山線列車事故から19年が経過し、JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027も2年目となりました。計画初年度である昨年度、残念ながら立て続けに死亡労災が発生し、2名の仲間のかけがいのない命を失いました。「安全は絶対に譲らない」決意で、是々非々で議論をおこない、「世界一安全な鉄道」と胸を張れるJR西日本を労使でめざしてまいります。②心理的に安全で、誰もが生き生きと働き、多様性を許容する職場環境を創る

況に危機感を持ち「人材の確保および定着と成長に向けた提言」を提起しました。社員一人ひとりが誇りと働きがいを持てることを目指し、ワークエンゲージメントを高める制度改正、職場環境の改善は待ったなしとの認識のもと、昨年の総合労働協約改訂交渉において、諸制度改善を図ることができました。今年5月には育児・介護休業法が改正・公布されました。今年度

の総合労働協約改訂交渉において、これまで以上に、男女がともに仕事と育児・介護、あるいは私傷病などと両立でき、多様性を許容できる環境整備について議論してまいりたいと考えています。③2025春季生活闘争について

J R 西日本の有価証券報告書では、昨年度のJ R 西日本従業員の平均年収が、年末の一時金獲得もあって、コロナ禍前の2019年度の水準まで戻っていることが明らかになっており、コロナ禍で傷んだ賃金をようやく回復することができました。

2025春闘は、2024春闘以上に重要な位置づけとなると考えています。長引く円安、燃料費の高止まりなどによる物価高はまだまだ続いており、継続的な賃上げは、もはや日



演壇

本経済の持続的成長に欠かすことはできません。さらには、コロナ禍においてベアを継続的に実施した他産業との格差が生じていることも事実です。「人材への投資」として、その成果配分を求めていく覚悟を表現したいと思います。

④魅力と求心力ある、誰もが参加しやすい活動を展開する
ここ1年でコミュニケーションを図る機会が再開されましたが、とりわけコロナ禍に入社した組合員の皆さんは、職場の先輩、同僚との繋がり、絆は弱まり、苦慮している方も多いためではないでしょうか。地本、支部や分会でもさまざまな工夫を凝らしているとは思いますが、これまで以上に、誰もが参加しやすい活動を模索し、活動の魅力を高めていただくことを要請します。

⑤地域に根差した公共交通の実現と政治との関わりについて
J R 西日本管内の地方路線は極めて厳しい状況が続いています。現在、芸備線の一部区間について、再構築協議会が設置され、議論が始まっていますが、路線の存廃を焦点化するのではなく、関係者が連携・協働し、実情に合った持続可能な地域

第一小委員会 (組織・財政)

長岡代議員

・2024春闘への感謝
・新型コロナウイルス感染症対策と今後
・地方独立行政法人の設立と転籍
・人間ドック受診病院指定に関する要望



吉谷代議員

・新入組合員の対応方に関する要望
・若手組合員の組合離れ



森岡代議員

・中国統括本部所属組合員の組合活動
・硬式野球部の応援



第二小委員会 (安全・業務)

北代議員

・車掌や駅係員の着座業務
・乗務カバンの多様化
・熱中症対策

